

お告げのマリア修道会

まごころ会

2026年2月
TEL.095-846-8300



QRコードから
アクセスして
下さい

『わたしは主のはしたためです。
お言葉どおり、この身になりますように。』

世界奉獻生活者の日

私たちのために祈りください

「World Day for Consecrated Life (世界奉獻生活者の日)」は、1997年に教皇ヨハネ・パウロ2世によって制定され、毎年2月2日に祝

われます。今年「奉獻生活者の日」制定後、30回目の記念の年であり、教皇レオ14世はバチカンでミサを捧げられます。日本の教会では、毎年この日の前後に信徒と奉獻生活者がともに集い、ミサを捧げています。長崎大司教区では

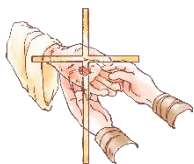
1月31日(土)に城山教会で行われました。

教皇ヨハネ・パウロ二世はこの日を制定した目的を3つのべておられます。①聖別奉獻生活という賜物を与えてくださった主を賛美し、感謝すること②すべての人が聖別奉獻生活の価値をよりよく知るようになること③奉獻生活された人たちが、主が与えてくださった業のために共に集まり、祝うことです。

この日、私たちは教皇様の意向に沿って、ともに集い「福音的勧告」の実践をおしてキリストに従うことを選んだ人々の歩みに心を寄せ、聖別された人々は、自分たちの奉獻を新たにし、主への献身の力の源である熱心さの炎を燃やし、同じところで生きる仲間との絆を深める機会としています。

これからも、私たち、お告げのマリア修道会会員を含め、すべての奉獻生活者のために祈りください。

主の受難に心をあわせて



今年の水曜日は、2月18日、復活祭は4月5日です。まもなく、四旬節が始まります。

「灰をかぶる」のは元々、教会から離れた人が共同体に戻る際、公の場で反省と悔い改めを示す儀式だったようです。ローマ教会では1091年、教皇ウルバヌス2世が灰の儀式を行うよう命じ、「灰の水曜日」として確立されました。

灰の水曜日は、復活祭前の準備期間である四旬節の始まりを告げるもので、イエス・キリストが荒野で40日間断食したことに由来し、回心と謙遜の象徴として「灰の式」が行われることから名付けられました。この灰は、前年の枝の主日に使われた棕櫚の枝などを燃やしたもので、額に十字を描くことで「あなたは塵であり、塵に帰る」という人間の儚さ、人間が神の前で小さい存在であることを自覚し、神への信頼を表現します。

私たちは自分の生き方、日々の働き、信仰生活を振り返り、御父の限りない慈しみ、イエスの受難を思い、回心の思いをあらたにします。具体的には祈り、断食、節制、愛徳の実践を通して、キリストの復活の喜びをより深く迎えるための準備期間となるようにと教会は呼びかけています。

まごころ会会員帰天 お祈りください

・マリア 梁 アイ子 福見教会

※毎月、初金曜日に、すべてのまごころ会員のためにごミサをお捧げしています。心を合わせて、お祈りください。



今年の冬は、寒さが厳しく、春が遠いように感じます。皆様も体調を崩さないように気をつけてお過ごしください。

